

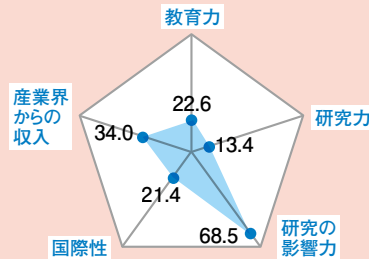
首都大学東京

Tokyo Metropolitan University (TMU)

経年変化に着目することで 自大学の国際的な評価を確認

グローバル化の推進に ランキングは重要

本学では、「世界大学ランキングは重要だが、それに振り回されないことも等しく重要」とのスタンスをとっています。



学生数 / 9,294人
 学部 / 都市教養、都市環境、システムデザイン、健康福祉
 大学院 / 人文科学、社会科学、理工学、都市環境科学、システムデザイン、人間健康科学

指標	ポイント	ランキング	その他指標
総合	32.6-37.5	401-500位	ST比率 / 9.6
教育力	22.6	501-600位	留学生の割合 / 4%
研究力	13.4	601-800位	
研究の影響力	68.5	251-300位	女男比 / 35 : 65
国際性	21.4	801+位	
産業界からの収入	34.0	601-800位	

ランキング担当部署: 国際課、学長室

*データは全て THE 世界大学ランキング 2016-17 に基づく

海外の学生が留学先を選ぶ際には、こうしたランキングを参考にすることがあります。自国の大学と比較することで、留学する大学のレベルが類推できるからです。研究者も同じで、世界をリードする研究が行われている環境を求めてランキングを利用します。さらに、海外の大学と協定を結ぶときもランキングは大切な情報です。自分の大学が世界からどう見られているかを知るという意味で、「国際的な評価」としてのランキングは、数値だけではなく、質を伴ったグローバル化を推進するうえで大切なのです。

一方で、大学の国際ランキングにはいくつか種類があり、それぞれに評価する指標が異なっています。THEのランキングは、研究力評価の側面が強く出ています。どのランキングも評価する指標やそのウェイトに違いがあるため、ランキングを上げるための改革は本末転倒といえます。

研究を推進力にして 質の高い大学教育へ

本学の個々の研究水準は高く、論文引用数も多くなっています。また、2011・12以降の経年変化をみると、地道に努力すべき「教育力」や「研究力」などの評価は基本的に上昇傾向にあります。

「教育力」を高めるため、大学教育センターに入試、全学共通教育、FD・評価支援の3つの部門を置き、教育改革を推進しています。また、「研究力」を高めるため、研究戦略の立案を行う「研究戦略企画室」と科研費獲得から産学連携まで一貫通貫で支援する「URA室」からなる、総合研究推進機構を設置しました。さらに、研究資源を有機的に結び付け、「世界の頂点」となりうる研究分野の構築をめざして、「金の化学研究センター」など、15の研究センターを設置しています。つまり、本学の改革方針とランキングの評価指標との間には整合性がとれているわけで、改革を進めていけばランキングはついてくると考えています。



理事・副学長(国際化担当)

海老原充

えびはらみつる ● 1979年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。1979年シカゴ大学フェリスカレッジ研究科博士研究員。1982年群馬大学講師。同大助教などを経て、2001年都立大教授。2005年首都大学東京教授となり、2015年国際センター長、副学長。2016年より理事。

ランキングはうまく活用すれば、大学の本質的な発展にも寄与します。質の高い学生や研究者が集まれば、長期的には研究力と教育力を高められるからです。いずれは評判調査の結果にもよい影響をもたらすでしょう。

今後はIR部門を整備し、ランキングの詳細な分析結果を、改革案に反映させていくことになりま。当面は、15の研究センターを中心に本学の強みである研究面をさらに強化し、質の高い大学教育をめざします。